

I. マタイ 25 章 1-13 節
「十人の娘／おとめのたとえ」

始めに

聖会のテーマ：マタイの福音書 25 章 13 節、「キリストを待ち望む生活」

1. マタイの福音書 24～25 章の文脈

(1) オリーブ講話＝終末の説教

- ・神殿の崩壊予告に対する質問（マタイ 24：3）
- ・解釈の難しさ

(2) マタイ 24 章

- ・まだ終わりではない（6 節）、産みの苦しみの始まり（8 節）
- ・「福音は…すべての民族に証しされ、それから終わりが」（14 節）
- ・ユダヤの人々が遭うことになる苦難（15-22 節）
- ・偽キリスト、偽預言者の出現（23-28 節）
- ・天変地異で表現される社会の大変動（29-35 節）
- ・「その日、その時がいつなのかは、だれも知りません」（36 節）
- ・「目を覚ましていなさい」「用心していなさい」（42 節、44 節）

(3) マタイ 24 章 45 節が 25 章の見出し

- ・「主人によって…しもべたちの上に任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべとはいったいどれでしょう。」
- ・「賢い」→「十人の娘のたとえ」（25 章 1-13 節）、「賢い」（2, 4, 8, 9 節）
- ・「忠実」→「タラントのたとえ」（25 章 14-30 節）、「忠実」（21 節、23 節）
- ・「食事時に…食事を与える」→「羊と山羊の話」（25 章 31-46 節）、

2. 十人の娘のたとえ

(1) 当時の婚礼

- ・夜間に開かれる祝宴
- ・花嫁の家で花婿と友人たちを待つブライドメイドたち
- ・松明を持って一行を迎え、それから花婿の家に

(2) たとえの展開

- ・油を分けたら、途中で灯りを失う危険性
- ・婚礼は深夜まで、店も開けてもらえる

3. たとえから教えられること

(1) 予想以上に遅くなるが、キリストがいつ来られても良いように備える。

- ・遅くなったために、本当に備えていたかどうか明らかにされた
- ・神の時を待つことによって成長させられる私たち

(2) 一人一人がキリストと真の関係を持っている必要がある。

- ・12 節「まことに、あなたがたに言います。私はあなたがたを知りません。」は、元々「あなた方を知らない、関係が無かった」の意
- ・思いがけない時に訪れる「終わり」、再臨だけでなく、個々の人生も